

第 137 回沖縄県医師会医学学会総会



広報委員 山川 研



第 137 回沖縄県医師会医学学会総会日程

会 期：令和 6 年 12 月 8 日（日）
 会 場：沖縄県医師会館

医学会長挨拶 沖縄県医師会医学学会長 砂川 博司
 医学学会頭挨拶 第 137 回沖縄県医師会医学学会総会会頭 石川 清和

日本専門医機構認定共通講習【医療安全 1 単位】
 「自分ごとから始める医療安全・質改善」
 エム・シー・ヘルスケアホールディングス株式会社
 CSO/CMO 小西 竜太

よくわかるシリーズ
 「月経前症候群（PMS）の漢方治療」
 F クリニック沖縄 院長 多和田 利香

教育講演
 「心臓血管外科の最前線」
 琉球大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座
 教授 古川 浩二郎

特別講演（ランチョンセミナー）
 「治療成績向上に寄与し活動性を改善するリハビリテーション治療」
 ちゅうざん病院 理事長・院長 田島 文博

特別企画
 沖縄県の未来の医療を考える“ちゃーあびー”の大激論会
 「医師の“しあわせ”を語るカフェ」

玉城研太郎 仲村 尚司 北原 佑介
 湧川 朝雅 富名腰 亮 銘苅 桂子
 末永 正機 宮城 剛志 幸喜 絢子
 嘉数 昇達
 一般演題
 一般講演【78 題】（うち、医学会賞（研修医部門 19 題））

去る 2024 年 12 月 8 日（日）に第 136 回沖縄県医師会医学学会総会が開催されたので報告致します。当日の天候は曇りでしたが気温は 18℃前後、屋内では比較的過ごしやすい環境だったと思います。例年通り多くの方々が参加されていました。

冒頭に行われた医学会長挨拶では前半は戦後の沖縄の医療界が県民の受診環境と平均寿命の延伸に貢献されたこと、その後 2022 年の「26 ショック」以降、新たな課題に直面しているが、これらに対しては医療者のみならず、患者さんや県民も一体となった取り組みが重要であり、さらには取り組みを強化していきたい旨のお話がありました。また、更にその先にある沖縄県の健康長寿の復活に向け、「誰一人取り残さない健康づくりの展開」に向けた提言および中堅、若手医師に対する期待を述べられておりました。

その後も主に講演を拝聴しました。日本専門医機構認定共通講習としてエム・シー・ヘルスケアホールディングス株式会社の小西竜太先生による「自分ごとから始める医療安全・質改善」という講話がありました。「自分ごとから」と述べられているのは、日々の忙しさから医療安全が「他人ごと」になりやすいことを示唆しておられます。その解決法として組織として医療安全にどう取り組むか、組織の一員として自分はどう向き合うか、というテーマに対する様々な提言がありました。最終的には医療安全をいかに実現するかではなく、有害事象ゼロをめざす高信頼性組織をどう構築するかという点が重要であり、マネジメントやチームビルディングの重要性を再認識しました。

次に「よくわかるシリーズ」としてFクリニック沖縄の多和田利香先生による「月経前症候群(PMS)の漢方治療」のお話がありました。月経前症候群について非専門医にも理解しやすいように解説してくださり、先生が普段実践しておられる漢方薬の処方についても実例を挙げながらお話しされていました。一般内科の先生方にも役に立つご講話であったと思います。

教育講演は琉球大学病院胸部心臓血管外科教授の古川浩二先生による「心臓血管外科の最前線」と題して行われました。様々なデバイスを用いた心臓弁膜症の治療や血栓症の予防のための左心耳閉鎖術、ロボット手術や低侵襲手術の試みなどが紹介されました。琉球大学病院においても最新の知見を取り入れ、心臓血管外科領域も常に進歩し続けているこ

とが実感できました。

特別講演(ランチョンセミナー)はちゅうざん病院理事長・院長の田島文博先生が「治療成績向上に寄与し活動性を改善するリハビリテーション治療」と題してお話されました。前任の施設で実践した様々なリハビリテーションの成果とリハビリテーションに関する臨床研究および基礎研究の知見を幅広くご解説されていました。これまでの標準的なアプローチよりもより積極的な介入が素晴らしい成果を出したことが紹介され、多くの関係者の参考になったのではないのでしょうか。

最後に、これまでにない企画として第一線で活躍されている医師の先生方をシンポジストに迎え、若手医師とスモールグループでディスカッションを行うという取り組みが行われました。年代も専門性も異なる医師同士で対話を通して互いの価値観を認識・再確認するというものです。何か問題の解決策を探るというのではなく、異なる視点からの意見を共有しながら自らの価値観を育むというワークショップです。テーマはズバリ「医師としてのしあわせ」でした。各グループでそれぞれ活発な討論が行われ、各テーブルでも生き生きとした表情で議論が行われました。残念ながら時間の関係上、各グループで話し合った内容の共有まではできませんでしたが、新しい試みとして印象的でした。

様々な専門外の領域の第一線、あるいは最先端のお話が一度に聞けたので有益な時間を過ごせました。



医学会頭挨拶 (抄録)



第 137 回沖繩県医師会医学会総会会頭
石川 清和

今回沖繩県医師会医学会総会の会頭を務めることになりました、北部地区医師会会長の石川清和です。このような名誉ある機会を与えて頂いた、田名毅沖繩県医師会会長、砂川博司医学会会長、北部地区医師会理事の諸先生方に深謝いたします。また、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックの非常事態を乗り越えるのを支えてくれた、家族、今婦仁診療所職員、テニスサークル NANA のメンバーにも心から御礼申し上げます。

沖繩の医療は終戦後の食糧難等の混乱期を乗り越え 1985 年には平均寿命が日本一となりました。戦後 1950 年の沖繩の人口は約 70 万人で、1951 年の沖繩の医師数はわずか 131 人で著しい医師不足の状態でした。さらに、沖繩県には 40 近い有人離島があり、また本島の 50% 以上の面積を占める北部には沖繩県の人口の 10% 未満しか住んでおらず、多くの過疎地域がありました。(1950 年までの 5 年間で 13 人の医師が過労死で亡くなったとされ) 過酷な医師不足を解消するために 1951 年に医介輔制度を設立し 126 名の医介輔が誕生しました。また 1951 年に本島に 3 か所、宮古島、八重山島に各一か所の保健所が設置されると同時に、1951 年～1954 年で 120 人の公衆衛生看護婦 (以下公看) が養成され、保健所所属の公看が市町村に駐在し、担当地域すべての住民を対象に保健活動を行いました。結核性病 寄生虫 マラリア等地域に多い疾患を対象に行政 医療界 保健所が連携し活動することで、これらの疾患を克服してきました。その際に医師会員の情報交換、学術発表の場として沖繩県医学会を年二回開催してきました。第二次世界大戦で焦土と化した沖繩でしたが、このような先人の努力、ユイマール等の沖繩独特の精神、温暖な環境、豚肉 ゴーヤー等沖繩独特の食事です 1985 年には平均寿命

が日本一となりました。

しかし、2002 年の 26 ショック以降 沖繩県の平均寿命順位の転落、健康寿命順位の低迷は改善の兆しが見えてきません。食の問題 運動不足 過剰飲酒等の生活習慣の問題等に加えて 独居高齢者の増加は沖繩県の健康づくりの大きな障害要因となっています。

その中で今年 6 月の診療報酬改定は、生活習慣を改善する上で画期的な制度改革と考えています。高血圧症 高脂血症 糖尿病の患者さんに、検査データを提示し、生活習慣の問題点を指摘・指導し、「生活習慣改善の行動目標を提示した療養計画書」を患者 ▶ 医師双方が署名した文書を、双方が保存するようになりました。これを 4 カ月毎に再更新することで、新たな生活習慣を身につけてもらうのです。生活習慣が改善し療養計画目標を達成できれば 90 日処方にもすることも可能で、未達成の間は 2～4 週間毎の短期処方、行動目標の再確認 行動修正を繰り返すこととなります。国民皆保険制度の崩壊が危惧される中、国民と医療人の責任・義務を明文化し公開することによって、国民の健康づくりについての意識を変える事が可能になったと思います。国民皆保険制度のない諸外国では、健康的な生活習慣作りは自己責任です。生活習慣病になることは、医療費の高い諸外国においては、場合によっては自己破産につながりかねないからです。

21 世紀になりがん治療 C 型肝炎等の感染症、関節リウマチ等の自己免疫性疾患等での新たな治療薬の開発で治る疾患が増えてきました。更に高血圧症 糖尿病 高脂血症等の生活習慣病でも血圧、血糖値、脂質値を目標値に達成することが、容易にできるようになってきました。また糖尿病治療薬 SGLT2 阻害薬や GLP1 阻害薬に腎保護効果が有ることがわか

り、慢性腎臓病の治療に光明が差し始めています。ワシントン大学の今井眞一郎教授のNADワールドの提唱は視床下部 脂肪組織 骨格筋腸 等の臓器が交感神経 サーチュイン1 遺伝子 NAD+ NMN eNAMPT 等を介して臓器間コミュニケーションを取ることによって、代謝を制御し活動量や意欲までも調整し、健康長寿に大きく寄与すると期待されています。規則正しい生活や食事・運動に配慮する事、BMIを24前後に保つことがNADワールドの構成要素を活性化すると考えられており、生活習慣が健康長寿へ寄与する重要性も指摘されています。2025年以降さらに超高齢化を迎える日本において、NADワールドの体内での臓器間コミュニケーション研究は120歳健康寿命を補完する研究と期待されています。

第137回沖繩県医師会医学会総会講演 認定共通講習は小西竜太氏の講演で、「医療安全質の改善について」受動的な立場から能動的な立場に踏み出すことを提唱します。

よくわかるシリーズはFクリニック沖繩の多和田 利香院長が「月経前症候群 (PMS) の漢方治療」について講演します。個人差のあるPMSを理解することは、男性にとっては難しいことです。男性医師はもちろん、PMS症状の軽い女性医師にも聞いていただき、漢方治療の対処法を理解して頂きたいです。

教育講演は琉球大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座 古川 浩二郎教授の「心臓血管外科の最前線」についてです。11月12日に30代の親族が突然重度の大動脈弁逆流を指摘され、岡山県の病院で生体弁形成術を受けました。カテーテル治療を含めた心臓血管外科治療最前線非常に興味湧くところです。

特別講演はちゅうざん病院理事長 田島 文博先生の「治療成績向上に寄与し活動性を改善するリハビリテーション治療」です。田島先生の40年間リハビリテーション科で蓄積された知識、「薬は体内にあり」、活動筋から分泌されるマイオカインの効果を健康寿命を延伸させるために一刻も早く、沖繩県民 特に高齢者に周知させていきたいところです。

特別企画として今回は沖繩県医師会理事 玉城 研太郎先生を中心とした複数名の医師による沖繩県の未来の医療を考える“チャーあびー”の大激論大会「医師の“しあわせ”を語るカフェ」が開催されます。今年の6月から200床未満の病院と診療所の外来で始まった「生活習慣病療養計画書」交付は画期的な取り組みです。今年度4月に始まった「健康日本21第三次計画～2037年3月」の全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現をめざし、「だれ一人取り残さない健康づくりの展開」と「より実効性を持つ取り組みの推進」の基方針と連動しています。沖繩県の健康長寿復活に向け、私はより実効性のある取り組みについて①腸内細菌叢活性化としての発酵食品 沖繩の健康長寿を支えてきた黒糖 シークァーサー もーい豆腐等の海藻 にんにく酒 医者泣かし草などの民間療法 ②百年膝体操 フレイル予防としての握力測定 ③睡眠力を高める温熱下低周波電気治療 ④節酒のための炭酸水のシークァーサー割り 等を提案したいと思います。

最後になりましたが医師会活動は自分の声を発信し、社会を動かす大きな力となると考えています。2028年開業予定の公立北部医療センターの整備事業費は円安や戦争の影響を受け1.5倍に膨らみました。大きな懸念であった北部看護学校の公立化が停滞していました。これらの難問も地区医師会 県医師会の諸先生方の御支援があり、大きく進展してきております。ただ基幹病院に併設される、琉球大学病院地域医療教育センターでの医療人確保なくしては公立北部医療センターの健全な運営はできないと考えており、今後も医師会の先生方のご協力 ご支援を心からお願いしたいと思っております。

若手や中堅の先生方には是非県医学会での発表や医師会活動を通じて多くの先生方と面識を得て、自分自身の医師としてのライフワークの実現に向けて邁進して頂くことを心から祈念し第137回沖繩県医師会医学会総会 会頭挨拶とさせていただきます。

日本専門医機構認定共通講習（抄録）

【医療安全 1 単位】

「自分ごとから始める医療安全・質改善」



エム・シー・ヘルスケアホールディングス株式会社
Chief Strategy Officer (CSO) / Chief Marketing Officer (CMO)
小西 竜太

皆さんは「医療安全」と聞くと、どんなイメージを持ちますか？複雑な手続き、繰り返される本人確認や署名、インシデントレポートの提出、インシデントが発生した際に犯人探しのようなヒアリングやカルテチェックなど Negative な印象を持っていませんか？とはいえ、どんな医療従事者であっても、回避できる医療事故やエラーをなくすことに異を唱える方はいないはず。また外来や救急の場面や他科コンサルを受けた際に、「これは医療安全の点で予防できたケースだ」と診断したり、合併症やインシデントケースを診療して「なぜ再発防止できなかったのか」と医療安全の必要性を強く実感した経験もあるでしょう。

今回、皆さんが日々診療している領域で持たれた医療安全や質改善の気づきを、どのように組織全体に広げていくかをテーマにお話ししたいと思います。正直、忙しい日常では他者を巻き込んだ安全対策を進めるのは難しく、そのまま放置してしまうのが現実です。医療安全や質改善に対して受動的な立場から、自分の気づきを通じて組織や地域の安全・質を変える能動的な立場に踏み出してみませんか？

この講習では、ある医療安全のプロジェクトを通じて、医療安全や質改善の取り組みを現場から組織全体へ拡大するための方法論として個人や組織の行動変容、PDCA・SDCA サイクル、量から質への教育、チームマネジメントなどを追体験していただきます。皆さんの医療現場での、明日からの一歩を支援できれば嬉しいです。

PROFILE

- (学歴)
2002年 北海道大学医学部卒
2012年 Harvard School of Public Health 医療政策・管理学部卒（修士課程）
- (職歴)
2002年 沖縄県立中部病院 内科
2006年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合内科
2008年 独立行政法人労働者安全機構 関東労災病院 救急総合診療科（部長）/ 経営戦略室（室長）/ 卒後臨床研修管理室（室長）/ 医療情報部（副部长）/ 入院サポートセンター長を兼任
2019年～ 三菱商事株式会社ヘルスケア部シニアマネージャー（兼任）エム・シー・ヘルスケアホールディングス株式会社
上席執行役員 Chief Strategy Officer (CSO) / Chief Medical Officer (CMO)
- (資格)
総合内科専門医、社会医学系専門医・指導医、認定産業医



よくわかるシリーズ (抄録)

「月経前症候群 (PMS) の漢方治療」



Fクリニック沖縄
院長 多和田 利香

月経前症候群 (PMS : Premenstrual Syndrome) とは、月経前 3 ~ 10 日間に発症する多種多様な精神的あるいは身体的症状で、月経発来とともに減弱あるいは消失するものをいいます。

精神的症状としては、情緒不安定、イライラ、抑うつ、不安、眠気、集中力の低下、睡眠障害など、身体的症状としては、のぼせ、食欲不振・過食、めまい、倦怠感、腹痛、頭痛、腰痛、むくみ、お腹の張り、乳房の張りなどがあります。とくに精神的症状が強い場合には、月経前不快気分障害 (PMDD : Premenstrual dysphoric disorder) と呼ばれます。

その原因については未だはっきりとはわかっていませんが、最近では女性ホルモンの変動が関わっているのではないかとされています。排卵のリズムがある女性の場合、排卵から月経までの期間を黄体期と言います。黄体期前半はエストロゲン (卵胞ホルモン) とプロゲステロン (黄体ホルモン) が多く分泌されますが、黄体期の後半にはエストロゲンとプロゲステロンは急激に低下します。この女性ホルモンの急激な低下により、脳内のホルモンや神経伝達物質の異常を引き起こすことが PMS の原因ではないかとされています。

しかし、多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) や更年期の女性など、排卵がない場合にも症状がみられることや、脳内のホルモンや神経伝達物質はストレスなどの影響も受けることから、PMS は女性ホルモンだけが原因ではなく、その他多くの要因が複雑に関連して起きると考えられます。

実際、排卵の有無にかかわらず月経のある女性の約 70 ~ 80% が月経前に何らかの症状があると言われています。出現する症状およびその強さには個人差があり、軽度の不快感から日常生活に支障をきたすほどの重症例までさまざまです。生活に困難を感じるほど強い PMS を示す女性は 5% 程度いると言われています。

このように多くの女性を悩ませている PMS の治療として、日本では漢方薬がよく使われています。そして漢方薬の効果を実感されている女性も少なくないと思います。そこで、漢方医学的にみて PMS をどう捉えるのか、漢方薬はなぜ効果があるのか、西洋医学的治療と漢方医学的治療はどう違うのかなど、実際の症例をご提示しながら私見をまじえて解説させていただきたいと思います。

PROFILE

(略歴)

1996年 琉球大学法文学部卒業
2004年 琉球大学医学部卒業
2004年 那覇市立病院初期臨床研修
2006年 宮崎大学病院産婦人科
2008年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター産婦人科
2012年 兵庫県立尼崎病院東洋医学研究所研修
2013年 やんハーブクリニック、Naoko 女性クリニック
2017年 Fクリニック沖縄

(専門医)

産婦人科専門医 女性ヘルスケア専門医 漢方専門医
日本抗加齢学会専門医

教育講演（抄録）

「心臓血管外科の最前線」



琉球大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座
教授 古川 浩二郎

循環器疾患に対する非薬物治療体系は、以前の高侵襲な手術中心からカテーテル治療を代表とする低侵襲な治療法へと大きく変化しています。しかし、カテーテル治療にも限界がありわれわれ心臓血管外科医は、それぞれの治療法の特徴を理解し一人ひとりの患者さんへ最適な治療と最高の結果を提供する義務があります。今回の教育講演では、代表的な循環器疾患である弁膜症・心不全・心房細動・大動脈瘤・末梢動脈疾患に対する最新のカテーテル治療を含む外科治療を紹介することで皆様の明日からの診療の一助になれば幸いです。

弁膜症：超高齢化社会となり大動脈弁狭窄症（AS）の方が急速に増加しています。80歳以上のASの方には経カテーテル大動脈弁移植術（TAVI）が第一選択で行われます。術後の回復は早く1週間以内には自宅退院可能な治療です。75歳以下の若年の方には従来の開胸下の大動脈弁置換術が行われます。大動脈弁閉鎖不全症（AR）の方には人工弁を使用せず自己大動脈弁を温存する手術が積極的に行われています。特に若い方には有用です。ほぼすべての僧帽弁閉鎖不全症（MR）の方には人工弁置換術ではなく形成術が行われます。近年、外科手

術が不可能なMRの患者さんにはカテーテル治療であるMitraClipが行われます。外科的な大動脈弁および僧帽弁の手術に対しては右小開胸で行う低侵襲心臓手術（MICS）が積極的に行われており、直視下・内視鏡下・ロボット支援下などの方法があります。

心不全：基本的には薬物治療が行われますが、超重症の心不全の方には種々の機械的補助（IABP、ECMO、人工心臓：VAD）が行われます。最近、カテーテル左心室補助装置であるImpella[®]が臨床使用可能となりBridgeto recovery、Bridge to VADとして使用されており、重症心不全の患者さんの救命率改善の一助となっています。

心房細動：心房細動の患者さんに対しては、カテーテルによるablation治療が行われますが、心房細動が持続する方は脳梗塞予防のために一生の抗凝固薬（ワーファリン、DOAC）の内服が必要です。脳梗塞の原因となる左心房内の血栓はほぼすべてが左心耳に形成されます。近年、外科的に左心耳を切除することで抗凝固薬を中止することが可能になっています。

大動脈疾患：根治性の高い従来の開胸開腹下の人工血管置換術と低侵襲な大動脈内に人工血管を留置するステントグラフト治療が行われています。

末梢動脈疾患：糖尿病、慢性腎臓病の方の増加により虚血性下肢動脈閉塞症の方が急速に増加しています。バイパス手術とカテーテル治療を組み合わせるHybrid治療が多く行われています。また、これからの治療として血行再建が不可能な方には、再生医療製品である脂肪幹細胞の筋肉注射の治療が行われています。

P R O F I L E

(学歴)

昭和 57 年 3 月 福岡県立修猷館高校卒業
 昭和 57 年 4 月 佐賀医科大学医学部医学科入学
 昭和 63 年 3 月 佐賀医科大学医学部医学科卒業

(職歴)

昭和 63 年 6 月 佐賀医科大学医学部外科医員
 平成 元 年 9 月 福岡徳洲会病院心臓血管外科医師
 平成 3 年 6 月 古賀病院心臓血管外科医師
 平成 5 年 12 月 佐賀医科大学医学部附属病院胸部外科助手
 平成 8 年 1 月 佐賀県立病院好生館循環器科医師
 平成 10 年 7 月 佐賀県立病院好生館心臓血管外科医長
 平成 12 年 4 月 佐賀医科大学医学部外科学助手
 平成 15 年 7 月 ベイラー医科大学 (アメリカ、ヒューストン) 研究員 (文部科学省在外研究員)

平成 16 年 6 月 佐賀大学医学部外科学助手
 平成 18 年 3 月 佐賀大学医学部附属病院心臓血管外科講師
 平成 23 年 4 月 佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科准教授
 平成 29 年 9 月 九州医療センター心臓血管外科部長
 平成 30 年 8 月 九州医療センター循環器センター統括運営部長
 令和 2 年 9 月 琉球大学胸部心臓血管外科教授

(所属学会名及び役職名、その他)

日本外科学会 (代議員、専門医、指導医)
 日本胸部外科学会 (評議員、認定医、指導医)
 日本心臓血管外科学会 (評議員、専門医、修練指導者)
 日本胸部外科九州地方会 (評議員)
 植込型補助人工心臓治療学会 (植込型補助人工心臓実施医)

特別講演 (ランチョンセミナー) (抄録)

「治療成績向上に寄与し
 活動性を改善するリハビリテーション治療」



ちゅうざん病院 理事長・院長
 和歌山県立医科大学 名誉教授
 田島 文博

産業医科大学 1 期生として卒業してから同大・浜松医大・和歌山医大で 40 年間リハビリテーション科医として診療してきた。リハビリテーション診療の基本は「Whole body で診て、早期から高強度長時間の運動療法を基本とし、「活動を育む」ことである。障がい者スポーツはその良い例で、パラアスリートは加齢による機能低下を最小化できる。

急性期病院では ICU 入院症例をはじめ、手術症例、抗癌剤投与症例、頸髄損傷等に対し

て理学・作業・言語聴覚訓練を施行した。予定手術症例は術前から取り組み、毎朝回診をし、毎タカンファをし、療法士・看護師等にも医学知識の共有に努めた。意識障害のある脳血管障害患者にも 24 時間以内に起立・歩行訓練が開始出来るようになった。

研究にも力を入れ、早期訓練の有用性や効果発現機序に関する研究論文を発表し続けた。例えば、活動筋からホルモン様物質が分泌され、全身の細胞・臓器を活性化するマイオカインの研究である。個人的な感想だが、医師が行った治療の効果は十分に引き出されていないと感じる。診療科を問わず、リハビリテーション治療は治療結果を最良化すると考えている。和歌山医大病院は DPC 係数日本一となり、僻地の那智勝浦町立温泉病院は黒字化し地域の医療費削減を達成した。獲得研究費は総額 15 億円を超え、同門から 10 名の医学部教授を輩出した。リハビリテーション治療は本格的な高齢化を迎える沖縄県の地域医療に寄与できると考える。

P R O F I L E

(学歴)

1984年5月 産業医科大学卒業
 同リハビリテーション科研修医
 1990年3月 同大学院博士課程卒業、医学博士

(職歴)

1990年4月 リハビリテーション医学講座助手
 1991年2月 リハビリテーション科専門医、講師
 1992年9月 ニューヨーク州特別奨学生 (Buswell fellow)
 同州立大学医学部リハビリテーション科
 Assistant Professor
 1994年9月 産業医科大学に復帰
 2000年3月 浜松医科大学医学部附属病院リハビリテ
 ション部助教授
 2003年9月 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学
 教授 (2023年迄)
 日本パラスポーツ協会メディカルチェック委
 員会委員長 (2023年迄)

2008年4月 那智勝浦町立温泉病院附置スポーツ・温泉医
 学研究所所長兼任
 2009年4月 文部科学省先端科学研究所指定和歌山県立医
 科大学げんき開発研究所所長兼任
 2014年4月 和歌山県立医科大学附属病院副院長兼任 (2017
 年迄)
 文部科学省より障害者スポーツ医科学研究拠
 点に認定
 2016年4月 和歌山県医師会理事
 2018年6月 日本リハビリテーション医学会副理事長
 (2024年まで)
 2023年3月 和歌山県立医科大学退職
 2023年4月 同名誉教授
 大阪河崎リハビリテーション大学理事、京都
 府立医科大学・日本福祉大学客員教授、ちゅ
 うごん会ちゅうごん病院 院長・理事長就任

特別企画【Team F-Vision Presents】

「沖縄県の未来の医療を考える“ちゃーあびー”の大激論会
 「医師の“しあわせ”を語るカフェ
 ～ウェルビーイングを見つける対話のワークショップ～」

医師として働く日々の中で、「しあわせ」や「ウェルビーイング」を感じる瞬間はどこにあるのでしょうか？本ワークショップは、世代や専門性の異なる医師たちが一堂に会し、対話を通じて「医師としてのしあわせ」を再発見する90分間の場です。

私たち医療者が日々直面する課題には、医療提供体制や地域間格差、診療科の不均衡といったシステム的な問題だけでなく、個々の医師の心の充実や職業的満足感という、より個人的なテーマも含まれています。本ワークショップでは、そうした課題や想いを分かち合いながら、医師としてのキャリアにおいて何が「しあわせ」なのかを、多様な視点から考えます。

対話を通じて、自分自身のウェルビーイングの「種」を見つけ、それを育むための具体的なアイデアを探ることが目的です。また、

この場は世代や経験を超えてつながりを築き、沖縄の医療を支える仲間たちとの新たなネットワークを構築する機会でもあります。

「医療には“夢”がある」。その想いを胸に、未来の医療を担う若い医師からレジェンドと呼ばれるベテラン医師まで、共に語り合しましょう。異なる世代の視点を共有しながら、沖縄の医療の未来を明るく照らすために、それぞれのキャリアの中で「しあわせ」を育むきっかけを得られるワークショップです。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

若い医療者の声を医療政策に！この企画を運営する Team F-vision は、沖縄県医師会がサポートする若手医師活性化 Project です。若手医師から先輩医師まで、世代の垣根を越えて沖縄県の医療の未来を創っていただけると発足したチームです。



一般講演 演題・演者一覧

< 口演部門 >

沖繩県医師会医学会賞（研修医部門）

- 1 血管迷走神経性失神を合併した肥大型心筋症に対して植え込み型除細動器移植術を行った
浦添総合病院 綿引日奈子
- 2 上腸間膜動脈塞栓症に対する血栓摘出および小腸切除術後に生じた著明な徐脈性心房細動による嚥下性失神の一例
友愛医療センター 初期臨床研修 循環器内科 砂川 尚輝
- 3 初期診断に苦慮した心原性脳塞栓症の一例
中部徳洲会病院 安井 暁生
- 4 抗ARS抗体陽性間質性肺炎の治療中にヘパリン起因性血小板減少症による多発動脈血栓症をきたした1例
北部地区医師会病院 初期臨床研修医 吉田 志野
- 5 鼓膜炎から早期診断し得た、咳嗽のないMycoplasma pneumoniae感染の一例
浦添総合病院 総合内科 大城千雅記
- 6 精神症状を初発とした神経梅毒の一例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 上原 未琴
- 7 低カリウム性周期性四肢麻痺と肝機能異常から診断に至った腺外病変を有する活動性シェーグレン症候群の1例
中頭病院 総合内科 高森ゆうみ
- 8 2型呼吸不全の鑑別疾患に苦慮し粘液腫性昏睡と診断した1例
沖繩県立中部病院 腎臓内科 鈴木 優花
- 9 COVID-19感染後に発症した下垂体卒中による下垂体性副腎不全の1例
沖繩協同病院 初期研修医 長嶺 大和
- 10 向精神薬の使用によるせん妄に及ぼす影響に関する後方視的調査研究
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 松原 洋夏
- 11 経食道心臓超音波検査ガイド下心臓内腫瘍生検で診断された心臓原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）の1例
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 眞壁 知花
- 12 腹痛を契機に発症した脾梗塞の1例
大浜第一病院 初期研修医 砂川 大輔

- 13 特徴的な腹痛の性状から診断に至ったFitz-Hugh-Curtis症候群の一例
沖繩県立中部病院総合内科 西銘 開
- 14 壊死性筋膜炎に合併した横紋筋融解症の救命例 CPK軽度高値は軽症なのか？
南部徳洲会病院 総合診療科 高木 弘毅
- 15 腸腰筋内血腫から後天性血友病の診断に至った1例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 研修センター 森嶋 由佳
- 16 COVID-19に伴う咳嗽が原因と考えられた腹直筋血腫に対してTAEを施行した1例
ハートライフ病院 外科 伊波 雅人
- 17 Hirschsprung病術後、コンプライアンス・排便コントロール不良により、巨大結腸症、虚血性大腸炎を発症し、結腸全摘を施行した1例
沖繩県立北部病院 島袋 希真
- 18 回腸利用新膀胱造設術後患者に生じた代謝性アシドーシスの1例
沖繩県立宮古病院 鈴木 守
- 19 術前に組織診が得られなかった子宮体癌の1例
友愛医療センター 新里 萌

呼吸器

- 20 気管支喘息のフェノタイプ別からみた喀痰の肉眼的特徴
下地内科 下地 克佳
- 21 ペムブロリズマブによる免疫関連有害事象として急性腎障害をきたした肺扁平上皮癌の1例
北部地区医師会病院 初期臨床研修医 熊谷 望
- 22 沖繩病院におけるEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの使用経験
沖繩病院 呼吸器内科 兼久 梢
- 23 乳癌術後22年目に胸膜播種を来し肺癌との鑑別を要した1例
中頭病院 呼吸器外科 嘉数 修
- 24 EWS充填術で治療したADL不良の有癭性膿胸の1例
沖繩病院 外科 川畑 大樹

呼吸器 (外科)

- 25 手術単独治療後7年間無再発で経過した胸腺癌の1例
中頭病院 呼吸器外科 黒田 尚希
- 26 True thymic hyperplasia の一例
中頭病院 病理診断科 仲田 典広
- 27 単孔式肺葉切除術を施行した肺癌の2例
中頭病院 呼吸器外科 大田 守雄
- 28 肺化膿症治療後に左上区区域切除および左S6区域切除を施行した成人CPAMの1例
中頭病院 呼吸器外科 玉城 駿
- 29 右下葉切除後の異時性多発肺癌に対してVATS-左舌区区域切除を施行した1例
中頭病院 呼吸器外科 赤嶺 佐月
- 30 肋骨骨折症例の入院期間についての検討
那覇市立病院 外科 真栄城兼誉

脳神経外科

- 31 充実性小脳血管芽腫に対してn-butyl-2-cyanoacrylate (NBCA) 及びコイルによる術前塞栓が有用であった1例
浦添総合病院 坂本 優貴
- 32 両側視床病変を呈した小脳テント硬膜動静脈瘻に塞栓術を行った1例
琉球大学病院 脳神経外科 喜舎場一貴
- 33 脳幹型PRESを呈した高血圧緊急症の1例
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 與那嶺達也

神経内科・放射線科

- 34 本態性振戦と考えられていた神経核内封入体病の1例
沖縄病院 藤原 善寿
- 35 死亡後に当院に搬送し剖検、レヴィー小体型認知症の診断を神経病理学的に確定し得た1例
沖縄県立中部病院 内山 桂一
- 36 頭部MRIの多発性信号変化で鑑別を要した痙攣後脳症の1例
ハートライフ病院 放射線科 杉江 翼

救急

- 37 減圧症リスクを上げないスキューバダイビングの検討
南部徳洲会病院 救急診療科 廣岡 聖也
- 38 肋骨骨折を契機とした外傷性下行大動脈損傷に対し、救命できた1例
浦添総合病院 桑野佑里恵
- 39 腹痛を主訴にwalk-inで受診した患者の1例から考える働き方改革と医療安全
沖縄県立北部病院 内科 与那嶺 克
- 40 消化器症状で発症した急性心筋炎の1例
沖縄赤十字病院 大門 香琳

循環器 (外科)

- 41 大動脈弁置換術後の高齢者に発症した急性A型大動脈解離破裂の救命例
南部徳洲会病院 心臓血管外科 河村 将彦
- 42 大動脈弁置換術中の大動脈切開に工夫を要した大動脈弁狭窄症の2例の検討
浦添総合病院 心臓血管外科 小泉 景星

- 43 C. acnesによる僧帽弁位人工弁感染の1例
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 知念 春佳
- 44 ドブタミン抵抗性の拡張型心筋症に対して、イバブラジンが奏功した1例
浦添総合病院 小林 稜典

一般・その他

- 45 沖縄赤十字病院におけるアグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫の後方視的解析
沖縄赤十字病院 友寄 毅昭
- 46 赤ら顔・酒さに対する治療戦略 第1報
貴クリニック 東盛 貴光
- 47 手紙によるグリーン・ケアの実践-遺族宛ての手紙に対するアンケート調査-
沖縄県立中部病院 玉城 和光
- 48 当院における透析医療のDCPについて-主に地震災害を考える-
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 宮里 均
- 49 沖縄県立中部病院における研修医の労働意欲と労働実態についてのアンケート調査
沖縄県立中部病院 照屋 周造

感染症

- 50 沖縄本島北部のCOVID-19に関する臨床疫学研究
北部地区医師会病院 検診科 岸本 拓治
- 51 沖縄県では何故、新型コロナウイルス感染症が多発したか
那覇市医師会 自宅会員 久田 友治
- 52 COVID-19と同時期に発症したAntithyroid arthritis syndromeの1例
沖縄県立中部病院 総合内科 尾原 晴雄
- 53 血液培養・尿培養から検出されたグラム陽性球菌の不一致を再検し、診断につなげたStaphylococcus epidermidisによる感染性心内膜炎の1例
沖縄県立北部病院 内科 與那覇智基

腎・泌尿器

- 54 両側腎癌の臨床検討
中部徳洲会病院 泌尿器科 吉岡 拓哉
- 55 右副腎腫瘍による原発性アルドステロン症を加療目的に精査した結果、左副腎由来であると判明し、左副腎腫瘍に対して腹腔鏡下左副腎摘出術を施行した1例
南部徳洲会病院 泌尿器科 岡崎 将斗
- 56 頭痛と顎跛行から巨細胞性動脈炎が疑われるもANCA関連血管炎の診断に至った1例
沖縄県立中部病院 総合内科 鈴木 智也

産婦人科

- 57 コルポスコピー所見が乏しかった子宮頸部腺癌の1例
友愛医療センター 産婦人科 前濱 俊之
- 58 脊椎損傷後の骨粗鬆症と過多月経を伴った1例
友愛医療センター 大城 大介
- 59 腹腔鏡下卵巣楔状切除術を施行した卵巣妊娠の1例
友愛医療センター 産婦人科 山田 真司

消化器 (内科)

- 60 膵癌の早期診断に向けた取り組み：検診異常からの膵癌高危険群の拾い上げ
中頭病院 消化器内科 森 英輝
- 61 嚥下障害のある患者に対して早期に嚥下内視鏡検査を行った一例。
南部徳洲会病院 総合診療科 大谷 哲平
- 62 難治性腹水に対する改良型 CART の当院の現況
友愛医療センター 外科 花城 清俊

一般外科・消化器 (外科)

- 63 当院におけるロボット支援腹腔鏡下肝切除術について - 術前 Virtual Reality シミュレーションを活かした術中コミュニケーション -
中頭病院 消化器・一般外科 林 圭吾
- 64 当院救急外来で診断した2例の急性上腸間膜動脈閉塞症について
浦添総合病院 初期研修医 石原 英理
- 65 クロルヘキシジンによる術中アナフィラキシーショックの一例
南部徳洲会病院 外科 中内 克
- 66 術前化学放射線治療後にロボット支援下低位前方切除術を施行し神経内分泌腫瘍成分のみが残存していた直腸癌の1例
中頭病院 卸川 智文
- 67 高齢者直腸癌術後の補助化学療法中に脳梗塞を発症した1例
ハートライフ病院 宮平 工

整形外科

- 68 大腿骨転子部骨折術後感染にペンローズドレーン留置による保存療法で治癒したと思われる1例
友愛医療センター 整形外科 野中祥太郎
- 69 大腿骨頭置換術中のセメントプラグ逸脱により Bone Cement Implantation Syndrome (BCIS) となり死亡した1例
南部徳洲会病院 整形外科 上総研一朗
- 70 痙攣により両側寛骨臼骨折を生じた1例
那覇市立病院 整形外科 翁長 正道
- 71 巨大骨欠損を伴う大腿骨遠位端開放骨折と巨大皮膚欠損を伴う Gustilo3B 脛骨開放骨折を合併した1例
浦添総合病院 山城 遥
- 72 当院で経験した踵骨嘴状骨折3例
中頭病院 整形外科 比屋定憲作
- 73 骨粗鬆症に対するアバロパラチドの小経験 - 骨粗鬆症診療体制を含めて -
琉球大学 整形外科 神谷 武志
- 74 FLS 開始した結果「リエゾン」はできているのか？
友愛医療センター 玉寄 美和
- 75 八重山諸島で発生した上腕骨近位部骨折に関する調査
沖縄赤十字病院 初期研修医 屋良俊太郎
- 76 リトルリーガーズショルダー (上腕骨近位骨端線離開) に関する後ろ向き調査 - X 線学的検討を中心に -
沖縄赤十字病院 整形外科 比屋根涼太
- 77 人工膝関節全置換術におけるロボット支援手術の経験
友愛医療センター 整形外科 毛利 正玄
- 78 大腿骨矯正骨切り術後 THA の2症例
友愛医療センター 整形外科 永山 盛隆



◇医学会賞 (研修医部門) I

最優秀賞：吉田 志野 (北部地区医師会病院) ※写真ひだりから2番目

「抗ARS抗体陽性間質性肺炎の治療中にヘパリン起因性血小板減少症による多発動脈血栓症をきたした1例」

優秀賞：高森 ゆうみ (中頭病院) ※写真ひだり

「低カリウム性周期性四肢麻痺と肝機能異常から診断に至った腺外病変を有する活動性シェーグレン症候群の1例」

◇医学会賞 (研修医部門) II

最優秀賞：森嶋 由佳 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター) ※ひだりから3番目

「腸腰筋内血腫から後天性血友病の診断に至った一例」

優秀賞：西銘 開 (沖縄県立中部病院) ※一番右

「特徴的な腹痛の性状から診断に至った Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例」